

企業物流短期動向調査（日通総研短観） 調査結果

（2015年9月調査）

2015年10月

株式会社 日通総合研究所

目次

I. 調査の内容	1
II. 調査の結果	3
1. 調査結果の概要	3
2. 国内向け出荷量の動向	5
3. 輸送機関利用の動向	9
(1) 一般トラック	10
(2) 特別積合せトラック	11
(3) 宅配便	12
(4) 鉄道コンテナ	13
(5) 内航コンテナ・RORO船	14
(6) 国内航空	15
4. 輸出入貨物量の動向	16
(1) 外貿コンテナ ー輸出ー	17
(2) 外貿コンテナ ー輸入ー	18
(3) 国際航空 ー輸出ー	19
(4) 国際航空 ー輸入ー	20
5. 在庫量と営業倉庫利用の動向	21
(1) 在庫量 ー原材料ー	22
(2) 在庫量 ー製品ー	23
(3) 営業倉庫保管量	24
6. 運賃・料金の動向	25
(1) 一般トラック運賃	26
(2) 特別積合せトラック運賃	27
(3) 鉄道コンテナ運賃	28
(4) 内航コンテナ・RORO船運賃	29
(5) 国内航空運賃	30
(6) 営業倉庫保管料金	31
7. 物流コスト割合の動向	32

I. 調査の内容

目的 : 本調査は、足もとの出荷状況等を各企業（事業所）の物流担当者に直接回答していただくことで、荷主企業の物流動向について業種横断的かつ包括的な情報を、データの形で迅速に公の場に提供することを目的として実施するものである。

方法 : 本調査はアンケート方式により、四半期ベース（3月、6月、9月、12月の年4回）で実施する。

調査項目は次のとおりであり、当期実績見込みと次期見通しを対前年同期比「増加する」、「横ばい」、「減少する」もしくは「値上り」、「変わらない」、「値下り」等の3つの選択肢の中から選択回答する。

1. 国内向け出荷動向
2. 輸送機関別利用動向（一般トラック、特別積合せトラック、宅配便、鉄道コンテナ、内航コンテナ、国内航空）
3. 輸出入貨物の動向（外貿コンテナ、国際航空）
4. 在庫量（原材料、製品）と営業倉庫利用の動向
5. 運賃・料金の動向（一般トラック、特別積合せトラック、鉄道コンテナ、内航コンテナ、国内航空、営業倉庫保管）
6. 売上高に対する物流コスト割合の動向

集計は、調査項目ごとに各選択肢の回答事業所数を集計し、その合計事業所数に対する割合を算出、以下により動向判断指標^(*)とする。

$$\text{動向判断指標} = \left[\begin{array}{l} \text{「増加する（値上り）」と} \\ \text{回答した事業所割合} \end{array} \right] - \left[\begin{array}{l} \text{「減少する（値下り）」と} \\ \text{回答した事業所割合} \end{array} \right]$$

なお、この指標は荷動き等に対する各事業所の（定性的な）動向を集約するものであり、この結果がそのまま全体としての（定量的な）出荷量などの増減を意味するものではない。

(*) 動向判断指標：本調査では、調査項目に応じて『荷動き指数』、『運賃動向指数』等の名称を付している。

調査対象 : 製造業、卸売業の主要2,500事業所を対象とする。

－今回調査の回収・集計状況－

今回調査は、2015年7～9月の実績と2015年10～12月の見通しを9月初旬時点でうかがったものであり、1,036社からご協力をいただき、回答率は41.4%となった。

なお、業種別にみた調査対象企業数、回答企業数ならびに回答率は、次表のとおりである。

調査対象企業数と回答企業数

業 種		調査対象 企業数	回 答 企業数	回答率 (%)
製 造 業	食 料 品 ・ 飲 料	232	108	46.6
	繊 維 ・ 衣 服	111	41	36.9
	木 材 ・ 家 具	93	38	40.9
	パ ル プ ・ 紙	108	50	46.3
	化学・プラスチック	239	118	49.4
	窯 業 ・ 土 石	102	39	38.2
	鉄 鋼 ・ 非 鉄	195	100	51.3
	金 属 製 品	128	58	45.3
	一 般 機 械	222	90	40.5
	電 気 機 械	333	119	35.7
	輸 送 用 機 械	251	96	38.2
	精 密 機 械	69	27	39.1
	そ の 他	167	53	31.7
	計	2,250	937	41.6
卸 売 業	生 産 財	124	50	40.3
	消 費 財	126	49	38.9
	計	250	99	39.6
合 計		2,500	1,036	41.4

Ⅱ. 調査の結果

－ 1. 調査結果の概要－

- 7～9月実績（見込み）の国内向け出荷量『荷動き指数』は△6と引き続き前年同期の水準を下回った。しかし、緩やかな改善が続いており、10～12月見通しでは△2まで戻すものと見込まれている。
- 業種別『荷動き指数』については、7～9月実績（見込み）では、全15業種中過半数の8業種において上昇したが、プラスの業種は4業種にとどまった。10～12月見通しでは、12業種において改善が見込まれるが、プラスの業種は5業種にとどまるとみられる。
- 地域別『荷動き指数』については、7～9月実績（見込み）では、プラスの地域は北陸・信越、中国、九州・沖縄の3地域であるが、北海道、関東、北陸・信越、東海、近畿、中国の6地域で改善がみられた。10～12月見通しでは、6地域で改善の動きが見込まれるものの、プラスの地域は東海、中国、九州・沖縄の3地域にとどまり、総じて改善傾向にはあるものの、回復の足取りは依然として鈍い。
- 輸送機関別『利用動向指数』については、7～9月実績（見込み）では、全輸送機関において改善がみられたが、引き続き全輸送機関で『利用動向指数』はマイナスを示している。10～12月見通しでは、国内航空以外の輸送機関において『利用動向指数』が改善方向に動くものの、引き続き全輸送機関で『利用動向指数』がマイナスとなる。ただし、一般トラック（△1）、特別積合せトラック（△2）、宅配便および鉄道トラック（△3）では水面近くまで戻しつつある。
- 輸出入貨物量『荷動き指数』については、7～9月実績（見込み）では、外貿コンテナの輸入および国際航空の輸入で上昇する一方、外貿コンテナの輸出および国際航空の輸出では低下した。『荷動き指数』は全輸送機関でマイナスを示した。10～12月見通しでは、外貿コンテナの輸入で『荷動き指数』が小幅に上昇する一方、その他の輸送機関では悪化する見込みであり、引き続き全輸送機関で『荷動き指数』はマイナスになるとみられる。
- 在庫量と営業倉庫保管量の動向については、7～9月実績（見込み）では、すべての『動向指数』が上昇し、製品在庫および営業倉庫保管量でプラス、原材料在

庫ではマイナスとなった。10～12月見通しでは、原材料在庫で『動向指数』が上昇する一方、製品在庫および営業倉庫保管量においては低下する見込みである。製品在庫では『動向指数』がプラス、原材料在庫および営業倉庫保管量ではマイナスと、バラツキがみられる。

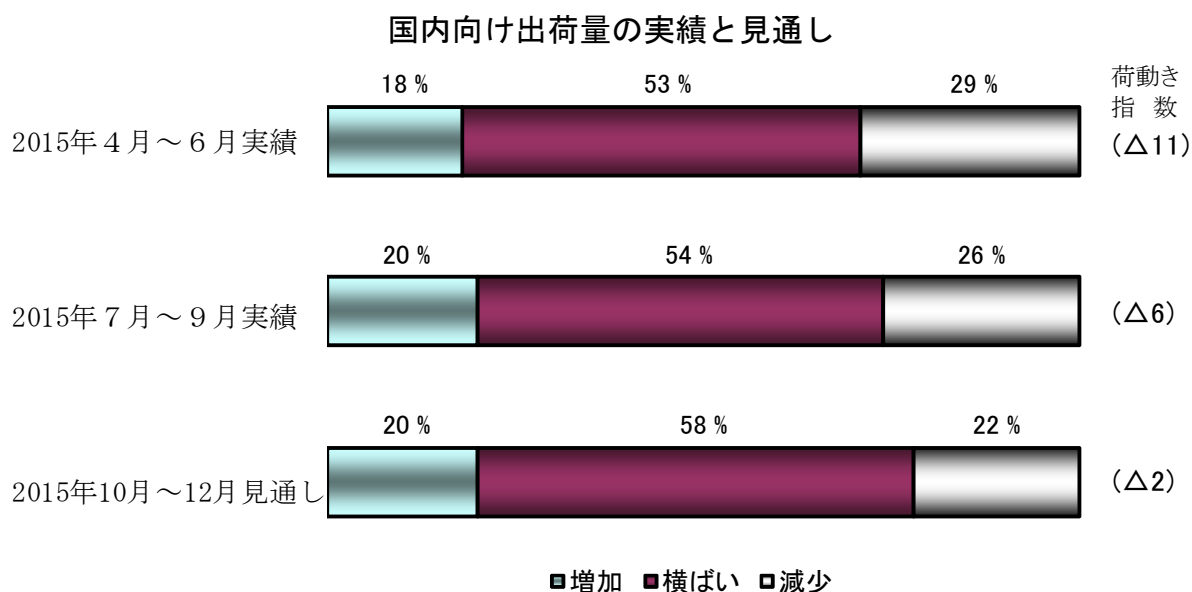
- 運賃・料金水準『動向指数』については、7～9月実績（見込み）では、内航コンテナ・RORO船において横ばいで推移する一方、その他の機関では低下した。『動向指数』は、国内航空においてゼロ水準で、その他の機関ではプラスとなった。10～12月見通しでは、一般トラックにおいて横ばいで推移する一方、その他の機関では上昇する見込みである。全機関で『動向指数』がプラスとなり、運賃・料金の上昇基調に変化はないが、やや一服感がみられる。

- 売上高に対する物流コスト割合の『動向指数』については、7～9月実績（見込み）では、輸送用機械が唯一マイナスで、残り14業種がプラスとなった。業種全体の『動向指数』はプラス15で、前期からは3ポイント上昇した。10～12月の『動向指数』見通しでは、7業種で上昇の動きがみられる。業種全体の『動向指数』はプラス15と横ばいでの推移が見込まれ、物流コスト割合の上昇圧力は依然として強い。

－ 2. 国内向け出荷量の動向－

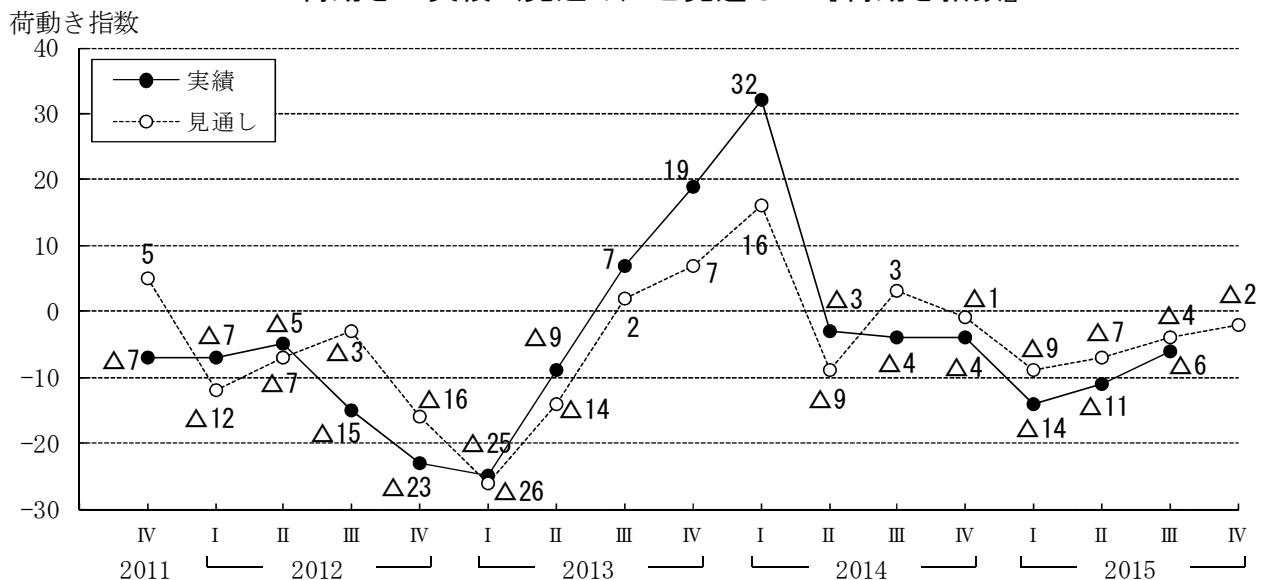
■ 7～9月実績（見込み）における国内向け出荷量の動向をみると、前年同期比で「増加」との回答が前期（4～6月）実績からは2ポイント上昇し20%となった。一方、「減少」との回答は前期より3ポイント低下して26%となり、この結果『荷動き指数』（＝「増加」の回答割合－「減少」の回答割合）は5ポイント上昇して△6となった。

■ 10～12月見通しの出荷量については、前年同期比で「増加」との回答が前期（7～9月）実績（見込み）からは横ばいで推移し20%となる一方、「減少」との回答は4ポイント低下し22%になる。この結果、『荷動き指数』は4ポイント上昇して△2と見込まれる。



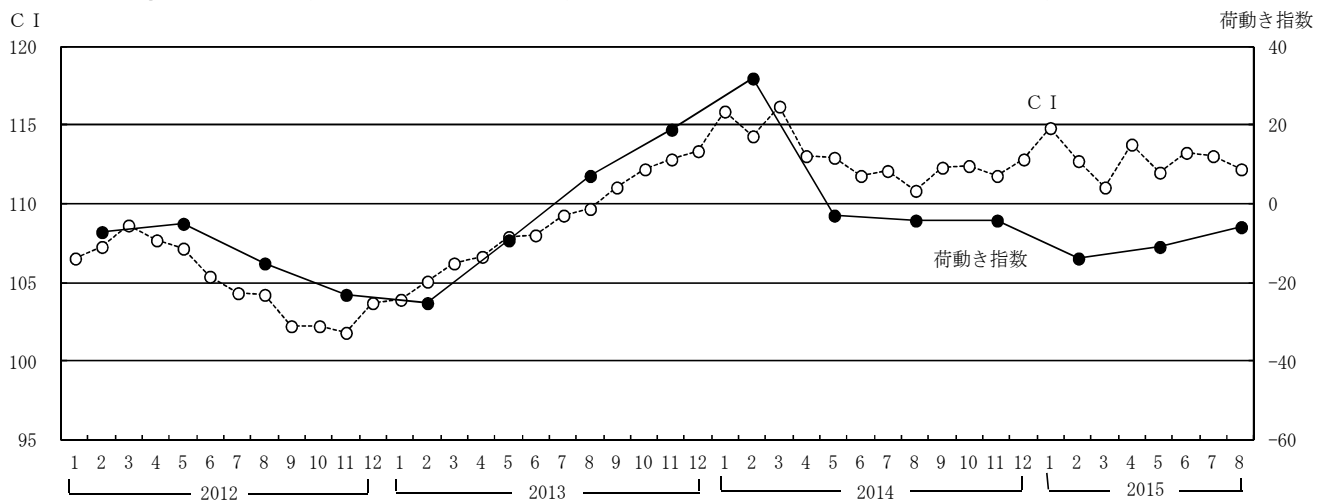
■ 今回調査の『荷動き指数』を前回までの調査と比較すると、消費税増税前の駆け込み需要の発生などを受けて、2014年1～3月実績ではプラス32と、本調査を開始した2002年以降では最高値を示した。しかし、駆け込み需要の反動などから、4～6月実績では一転して35ポイントの大幅な下降となり、以低低調に推移した。また、2015年1～3月実績では、前年同期における大幅な盛り上がりの反動もあって、△14と一段の悪化がみられたが、この時点を底に緩やかながら改善が続いており、7～9月実績（見込み）では△6、10～12月見通しでは△2まで戻している。

荷動きの実績（見込み）と見通しの『荷動き指数』



注) 点線は各期に入る前の時点の見通しにおける『荷動き指数』（2015年IV期の『荷動き指数』は今回調査時点の見通し）、実線は各期の途中の時点で判断した実績見込みの『荷動き指数』（2015年Ⅲ期の『荷動き指数』は今回調査における判断）。

景気動向指数（C I；一致指数）と国内向け出荷量『荷動き指数』の推移



注) 1. 荷動き指数は四半期ごとの数値のため、2月、5月、8月、11月の位置にプロットしている。
2. 景気動向指数研究会によると、第15循環における景気の山は2012年3月、景気の谷は2012年11月となっている。

■ 7～9月の業種別『荷動き指数』実績（見込み）をみると、**全15業種中過半数の8業種において前期（4～6月）実績よりも上昇した**。食料品・飲料、化学・プラスチック、精密機械、消費財卸の4業種がプラスで、残り11業種がマイナスとなった。

■ 10～12月の『荷動き指数』見通しでは、化学・プラスチックがゼロ水準まで下降する一方、木材・家具およびその他の製造業がプラスに浮上し、金属製品および輸送用機械もゼロ水準まで戻すなど、**12業種において改善が見込まれる**。ただし、プラスの業種は5業種にとどまり、ゼロ水準が3業種で、7業種がマイナスになるとみられる。

国内向け出荷量の実績と見通し（業種別）

業種	2015年7月～9月実績					2015年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
食料品・飲料	105	30	58	12	18	105	26	64	10	16	
繊維・衣服	41	7	64	29	△22	40	5	75	20	△15	
木材・家具	38	24	50	26	△2	38	18	71	11	7	
パルプ・紙	50	22	42	36	△14	50	20	52	28	△8	
化学・プラスチック	115	23	59	18	5	115	17	66	17	0	
窯業・土石	37	16	43	41	△25	37	24	46	30	△6	
鉄鋼・非鉄	97	11	53	36	△25	97	22	46	32	△10	
金属製品	54	22	50	28	△6	54	19	62	19	0	
一般機械	89	20	51	29	△9	89	20	45	35	△15	
電気機械	116	15	53	32	△17	114	20	48	32	△12	
輸送用機械	90	17	56	27	△10	89	20	60	20	0	
精密機械	27	30	52	18	12	27	30	56	14	16	
その他	52	21	56	23	△2	52	25	58	17	8	
計	911	19	54	27	△8	907	20	57	23	△3	
卸売業	生産財	49	14	55	31	△17	49	12	61	27	△15
	消費財	48	31	52	17	14	48	25	65	10	15
	計	97	22	54	24	△2	97	19	62	19	0
合計	1,008	20	54	26	△6	1,004	20	58	22	△2	

■ 7～9月の地域別『荷動き指数』実績（見込み）をみると、北陸・信越、中国、九州・沖縄の3地域でプラスを示し、残り6地域でマイナスとなった。前期（4～6月）実績との比較では、**北海道、関東、北陸・信越、東海、近畿、中国の6地域で改善がみられる一方、東北、四国、九州・沖縄の3地域では低下した。**

■ 10～12月の『荷動き指数』見通しでは、東北、関東、東海、近畿、中国、四国の6地域で改善の動きが見込まれる一方、北海道、北陸・信越、九州・沖縄の3地域では低下するとみられる。**プラスの地域は東海、中国、九州・沖縄の3地域にとどまり、総じて改善傾向にはあるものの、回復の足取りは依然として鈍い。**

国内向け出荷量の実績と見通し（地域別）

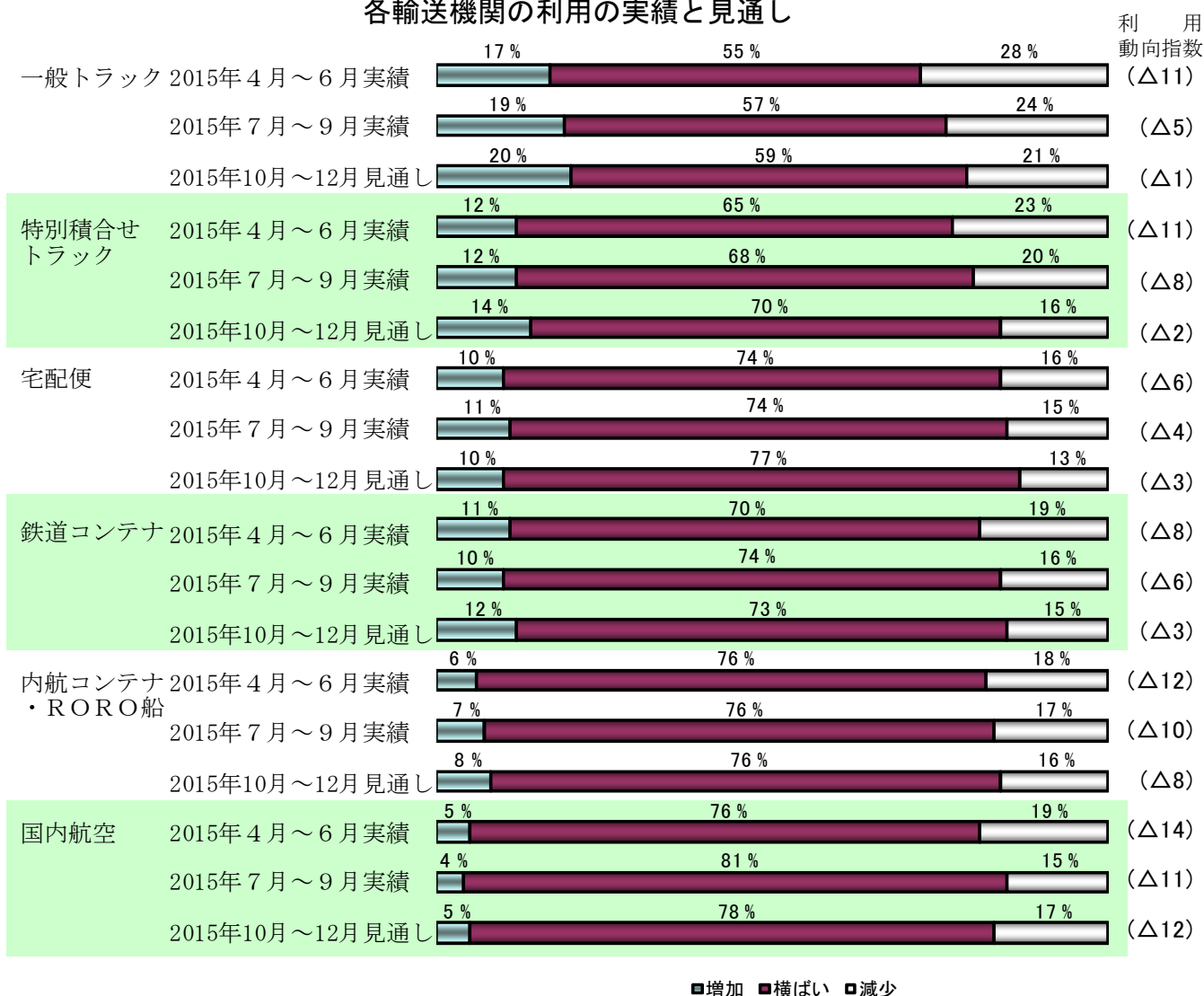
地 域	2015年7月～9月実績					2015年10月～12月見通し				
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少	
北 海 道	52	19	56	25	△ 6	52	12	65	23	△ 11
東 北	92	13	57	30	△ 17	91	20	56	24	△ 4
関 東	256	22	48	30	△ 8	254	19	55	26	△ 7
北 陸 ・ 信 越	91	23	56	21	2	90	19	59	22	△ 3
東 海	159	23	52	25	△ 2	159	25	53	22	3
近 畿	149	15	54	31	△ 16	149	23	53	24	△ 1
中 国	88	19	63	18	1	88	18	68	14	4
四 国	60	17	55	28	△ 11	60	13	64	23	△ 10
九 州 ・ 沖 縄	61	26	59	15	11	61	23	64	13	10
合 計	1,008	20	54	26	△ 6	1,004	20	58	22	△ 2

－ 3. 輸送機関利用の動向－

■ 7～9 月実績（見込み）の輸送機関別『利用動向指数』は、すべての輸送機関において前期（4～6 月）実績よりも改善がみられた。しかし、引き続きすべての輸送機関で『利用動向指数』はマイナスを示している。

■ 10～12 月の見通しでは、国内航空以外の輸送機関において『利用動向指数』が改善方向に動くものの、引き続きすべての輸送機関で『利用動向指数』がマイナスとなる。ただし、一般トラックでは△1、特別積合せトラックでは△2、宅配便および鉄道コンテナでは△3と水面近くまで戻しつつある。

各輸送機関の利用の実績と見通し



(1) 一般トラック

■ 7～9月実績（見込み）の『利用動向指数』は、食料品・飲料、化学・プラスチック、消費財卸の3業種がプラス、精密機械およびその他の製造業がゼロ水準で、繊維・衣服、鉄鋼・非鉄など10業種がマイナスを示した。業種全体の『利用動向指数』は、前期（4～6月）実績から6ポイント上昇して△5となった。

■ 10～12月の『利用動向指数』見通しでは、木材・家具など4業種がプラスに浮上するなど、11業種において改善の動きがみられる。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△1と4ポイント上昇する見通しであり、利用は回復に向かいつつある。

一般トラック利用の実績と見通し

業種	2015年7月～9月実績					2015年10月～12月見通し				
	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少	
食料品・飲料	105	27	59	14	13	105	30	58	12	18
繊維・衣服	35	5	69	26	△21	34	5	74	21	△16
木材・家具	37	22	54	24	△2	36	19	73	8	11
パルプ・紙	50	16	50	34	△18	50	18	60	22	△4
化学・プラスチック	115	27	57	16	11	115	17	68	15	2
窯業・土石	38	18	48	34	△16	37	22	46	32	△10
鉄鋼・非鉄	99	11	54	35	△24	98	21	49	30	△9
金属製品	57	22	53	25	△3	56	23	56	21	2
一般機械	90	18	58	24	△6	90	19	51	30	△11
電気機械	111	15	56	29	△14	110	19	52	29	△10
輸送用機械	92	16	59	25	△9	92	19	58	23	△4
精密機械	24	13	74	13	0	23	17	74	9	8
その他	53	21	58	21	0	53	21	64	15	6
計	906	19	57	24	△5	899	20	58	22	△2
卸売業										
生産財	47	15	64	21	△6	47	13	68	19	△6
消費財	46	28	57	15	13	46	24	65	11	13
計	93	22	60	18	4	93	18	67	15	3
合計	999	19	57	24	△5	992	20	59	21	△1

(2) 特別積合せトラック

■ 7～9月実績（見込み）の『利用動向指数』は、食料品・飲料および消費財卸がプラスで、残り13業種がマイナスを示した。業種全体の『利用動向指数』は、前期（4～6月）実績から3ポイント上昇して△8となった。

■ 10～12月の『利用動向指数』見通しでは、木材・家具など4業種がプラスに浮上し、その他の製造業および生産財卸もゼロ水準まで戻すなど、13業種において改善の動きがみられる。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△2と6ポイント上昇する見通しであり、利用は回復に向かいつつある。

特別積合せトラック利用の実績と見通し

業種	2015年7月～9月実績					2015年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
食料品・飲料	73	30	62	8	22	73	37	55	8	29	
繊維・衣服	27	7	63	30	△23	27	4	74	22	△18	
木材・家具	26	15	54	31	△16	25	16	72	12	4	
パルプ・紙	30	23	47	30	△7	30	20	63	17	3	
化学・プラスチック	100	14	71	15	△1	100	12	79	9	3	
窯業・土石	29	10	59	31	△21	28	7	68	25	△18	
鉄鋼・非鉄	60	3	72	25	△22	59	8	68	24	△16	
金属製品	36	11	70	19	△8	36	14	75	11	3	
一般機械	63	6	73	21	△15	63	6	72	22	△16	
電気機械	91	8	68	24	△16	91	11	66	23	△12	
輸送用機械	75	12	73	15	△3	74	13	69	18	△5	
精密機械	21	0	76	24	△24	20	10	75	15	△5	
その他	41	7	71	22	△15	42	12	76	12	0	
計	672	12	68	20	△8	668	14	70	16	△2	
卸売業	生産財	36	11	72	17	△6	36	17	66	17	0
消費財	35	20	66	14	6	35	20	74	6	14	
計	71	15	70	15	0	71	18	71	11	7	
合計	743	12	68	20	△8	739	14	70	16	△2	

(3) 宅配便

■ 7～9月実績(見込み)の『利用動向指数』は、生産財卸など5業種がプラスで、繊維・衣服、精密機械など10業種がマイナスを示した。業種全体の『利用動向指数』は、前期(4～6月)実績から2ポイント上昇して△4となった。

■ 10～12月の『利用動向指数』見通しでは、金属製品がゼロ水準まで下降する一方、木材・家具、鉄鋼・非鉄、精密機械の3業種がゼロ水準まで戻すなど、9業種において改善の動きがみられる。この結果、業種全体の『利用動向指数』は強含み横ばいで推移して△3となる見通しであり、利用は回復に向かいつつある。

宅配便利用の実績と見通し

業種	2015年7月～9月実績					2015年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
製造業	食料品・飲料	83	12	78	10	2	83	12	78	10	2
	繊維・衣服	35	3	74	23	△20	35	0	83	17	△17
	木材・家具	31	6	84	10	△4	30	7	86	7	0
	パルプ・紙	29	21	66	13	8	29	21	69	10	11
	化学・プラスチック	100	8	81	11	△3	100	6	85	9	△3
	窯業・土石	31	9	68	23	△14	31	6	71	23	△17
	鉄鋼・非鉄	56	5	82	13	△8	56	9	82	9	0
	金属製品	51	16	73	11	5	50	10	80	10	0
	一般機械	81	12	72	16	△4	81	10	73	17	△7
	電気機械	103	10	73	17	△7	102	10	72	18	△8
	輸送用機械	80	5	81	14	△9	80	7	78	15	△8
	精密機械	27	7	71	22	△15	26	12	76	12	0
	その他	44	14	61	25	△11	44	11	71	18	△7
計	751	10	75	15	△5	747	9	78	13	△4	
卸売業	生産財	39	23	62	15	8	39	21	67	12	9
	消費財	39	23	59	18	5	39	23	69	8	15
	計	78	23	60	17	6	78	22	68	10	12
合計	829	11	74	15	△4	825	10	77	13	△3	

(4) 鉄道コンテナ

■ 7～9月実績（見込み）の『利用動向指数』は、金属製品など5業種がプラス、繊維・衣服、精密機械、生産財卸の3業種がゼロ水準で、窯業・土石、その他の製造業など7業種がマイナスを示した。業種全体の『利用動向指数』は、前期（4～6月）実績から2ポイント上昇して△6となった。

■ 10～12月の『利用動向指数』見通しでは、繊維・衣服がマイナスに沈む一方、木材・家具がゼロ水準まで戻すなど、7業種において改善の動きがみられる。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△3と3ポイント上昇する見通しであり、利用は回復に向かいつつある。

鉄道コンテナ利用の実績と見通し

業種	2015年7月～9月実績					2015年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
製造業	食料品・飲料	49	16	72	12	4	49	20	70	10	10
	繊維・衣服	10	20	60	20	0	10	10	60	30	△20
	木材・家具	19	0	89	11	△11	18	11	78	11	0
	パルプ・紙	35	14	57	29	△15	35	11	72	17	△6
	化学・プラスチック	85	14	74	12	2	84	13	77	10	3
	窯業・土石	16	12	50	38	△26	17	12	47	41	△29
	鉄鋼・非鉄	39	13	82	5	8	39	21	64	15	6
	金属製品	20	10	90	0	10	20	5	95	0	5
	一般機械	33	12	82	6	6	33	12	79	9	3
	電気機械	39	5	77	18	△13	37	8	76	16	△8
	輸送用機械	37	2	76	22	△20	37	3	81	16	△13
	精密機械	13	8	84	8	0	12	8	84	8	0
	その他	32	6	63	31	△25	32	6	63	31	△25
計	427	11	74	15	△4	423	12	73	15	△3	
卸売業	生産財	14	14	72	14	0	14	14	72	14	0
	消費財	20	5	75	20	△15	20	10	75	15	△5
	計	34	8	74	18	△10	34	11	74	15	△4
合計	461	10	74	16	△6	457	12	73	15	△3	

(5) 内航コンテナ・RORO船

■ 7～9月実績（見込み）の『利用動向指数』は、食料品・飲料および化学・プラスチックがプラス、窯業・土石および一般機械がゼロ水準で、残り11業種がマイナスとなった。業種全体の『利用動向指数』は前期（4～6月）実績から2ポイント上昇して△10となった。

■ 10～12月の『利用動向指数』見通しでは、窯業・土石がプラスに浮上し、木材・家具および消費財卸もゼロ水準まで戻すなど、7業種において改善の動きがみられる。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△8と2ポイント上昇する見通しであるが、利用は引き続き減退するとみられる。

※ 今回より、「内航コンテナ」から「内航コンテナ・RORO船」に変更した。

内航コンテナ・RORO船利用の実績と見通し

業種	2015年7月～9月実績					2015年10月～12月見通し				
	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少	
食料品・飲料	33	12	79	9	3	33	18	76	6	12
繊維・衣服	5	0	60	40	△40	5	0	60	40	△40
木材・家具	11	0	91	9	△9	11	0	100	0	0
パルプ・紙	24	12	50	38	△26	24	12	63	25	△13
化学・プラスチック	62	11	83	6	5	62	8	86	6	2
窯業・土石	12	25	50	25	0	12	25	58	17	8
鉄鋼・非鉄	28	0	89	11	△11	28	7	72	21	△14
金属製品	15	0	93	7	△7	14	0	93	7	△7
一般機械	29	7	86	7	0	29	10	80	10	0
電気機械	36	8	75	17	△9	35	6	80	14	△8
輸送用機械	31	3	65	32	△29	31	3	65	32	△29
精密機械	11	0	73	27	△27	11	0	73	27	△27
その他	23	4	61	35	△31	23	4	70	26	△22
計	320	8	75	17	△9	318	8	76	16	△8
卸売業										
生産財	7	0	86	14	△14	7	0	86	14	△14
消費財	14	7	79	14	△7	14	14	72	14	0
計	21	5	81	14	△9	21	10	76	14	△4
合計	341	7	76	17	△10	339	8	76	16	△8

(6) 国内航空

■ 7～9月実績（見込み）の『利用動向指数』は、木材・家具が唯一プラスを示し、繊維・衣服、化学・プラスチック、金属製品の3業種がゼロ水準にとどまる以外は、残り11業種がマイナスを示した。業種全体の『利用動向指数』は△11で、前期（4～6月）実績から3ポイント上昇した。

■ 10～12月の『利用動向指数』見通しでは、食料品・飲料、鉄鋼・非鉄など6業種において悪化の動きがみられる。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△12と弱含み横ばいで推移する見通しであり、利用は引き続き減退するとみられる。

国内航空利用の実績と見通し

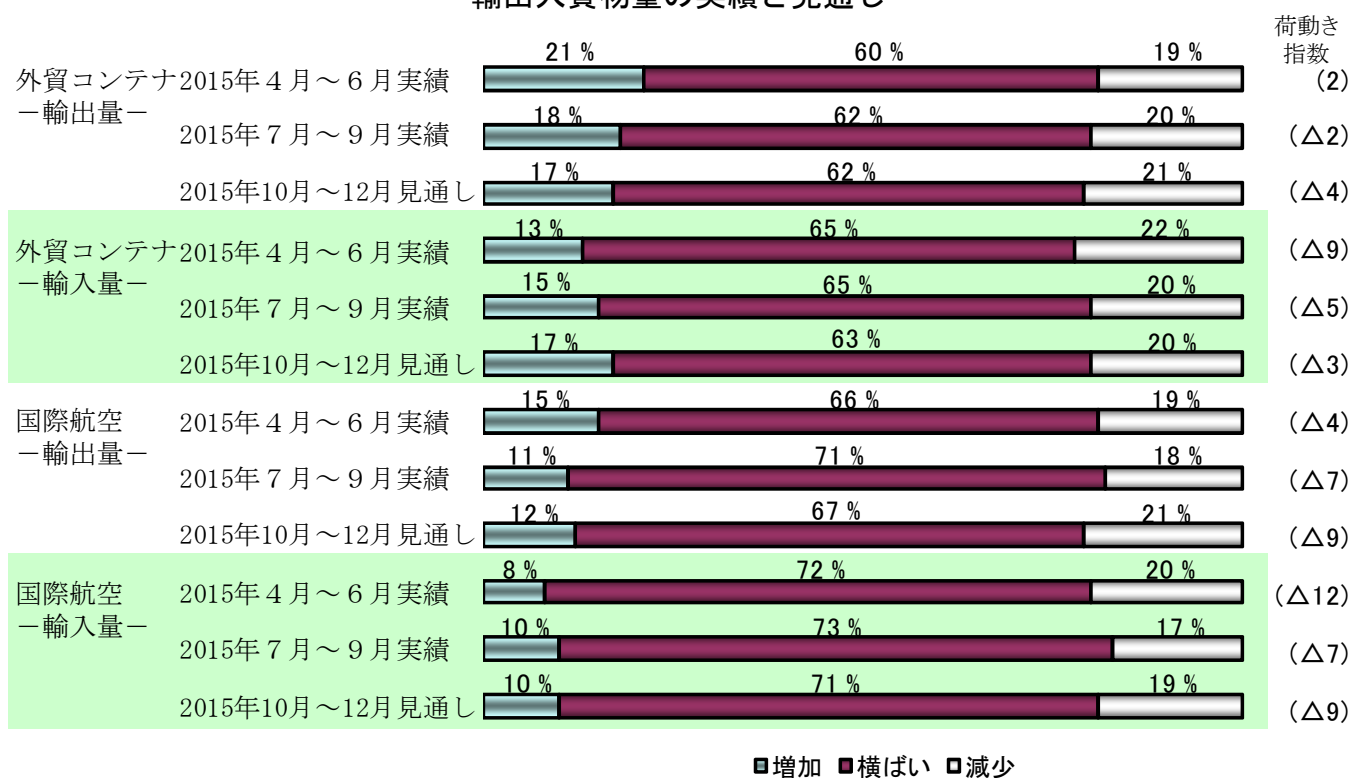
業種	2015年7月～9月実績					2015年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
製造業	食料品・飲料	28	4	75	21	△ 17	28	3	68	29	△ 26
	繊維・衣服	7	0	100	0	0	7	0	100	0	0
	木材・家具	7	14	86	0	14	7	14	86	0	14
	パルプ・紙	6	0	50	50	△ 50	6	0	50	50	△ 50
	化学・プラスチック	42	7	86	7	0	42	10	80	10	0
	窯業・土石	11	0	91	9	△ 9	11	0	91	9	△ 9
	鉄鋼・非鉄	21	0	95	5	△ 5	21	0	81	19	△ 19
	金属製品	13	0	100	0	0	13	0	100	0	0
	一般機械	40	5	85	10	△ 5	40	2	85	13	△ 11
	電気機械	57	7	70	23	△ 16	57	8	67	25	△ 17
	輸送用機械	35	0	89	11	△ 11	35	3	83	14	△ 11
	精密機械	17	11	65	24	△ 13	16	6	69	25	△ 19
	その他	21	5	76	19	△ 14	21	0	81	19	△ 19
計	305	5	81	14	△ 9	304	5	78	17	△ 12	
卸売業	生産財	14	7	64	29	△ 22	14	7	64	29	△ 22
	消費財	16	6	81	13	△ 7	16	6	81	13	△ 7
	計	30	7	73	20	△ 13	30	7	73	20	△ 13
合計	335	4	81	15	△ 11	334	5	78	17	△ 12	

－ 4. 輸出入貨物量の動向－

■ 7～9 月実績（見込み）の『荷動き指数』をみると、外貿コンテナの輸入および国際航空の輸入において前期（4～6 月）実績よりも上昇する一方、外貿コンテナの輸出および国際航空の輸出では低下した。『荷動き指数』は、すべての輸送機関でマイナスを示した。

■ 10～12 月の見通しでは、外貿コンテナの輸入において『荷動き指数』が小幅に上昇する一方、その他の輸送機関では悪化する見込みである。この結果、引き続きすべての輸送機関で『荷動き指数』はマイナスになるとみられる。

輸出入貨物量の実績と見通し



(1) 外貿コンテナ ー輸出ー

■ 7～9月実績（見込み）の『荷動き指数』は、パルプ・紙、化学・プラスチックなど8業種がプラスで、電気機械、輸送用機械など7業種がマイナスとなった。業種全体の『利用動向指数』は△2で、前期（4～6月）実績からは4ポイント低下した。

■ 10～12月の『利用動向指数』見通しでは、精密機械がゼロ水準まで戻す一方、その他の製造業および消費財卸がマイナスに沈み、窯業・土石もゼロ水準まで下降する。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△4と2ポイント低下する見通しで、荷動きは減退に向かう見込みである。

外貿コンテナによる輸出量の実績と見通し

業 種	2015年7月～9月実績					2015年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
製 造 業	食 料 品 ・ 飲 料	19	21	63	16	5	19	32	63	5	27
	織 維 ・ 衣 服	13	0	69	31	△ 31	12	0	58	42	△ 42
	木 材 ・ 家 具	6	50	50	0	50	6	17	83	0	17
	パ ル プ ・ 紙	18	39	44	17	22	18	39	50	11	28
	化学・プラスチック	64	22	67	11	11	64	19	69	12	7
	窯 業 ・ 土 石	18	33	45	22	11	18	17	66	17	0
	鉄 鋼 ・ 非 鉄	43	19	58	23	△ 4	43	12	65	23	△ 11
	金 属 製 品	20	30	55	15	15	20	30	50	20	10
	一 般 機 械	58	12	66	22	△ 10	58	12	66	22	△ 10
	電 気 機 械	63	11	65	24	△ 13	63	14	62	24	△ 10
	輸 送 用 機 械	56	14	56	30	△ 16	56	14	52	34	△ 20
	精 密 機 械	15	13	67	20	△ 7	15	20	60	20	0
	そ の 他	26	12	81	7	5	26	15	66	19	△ 4
計	419	18	62	20	△ 2	418	17	62	21	△ 4	
卸 売 業	生 産 財	10	10	70	20	△ 10	10	10	70	20	△ 10
	消 費 財	9	22	67	11	11	9	11	67	22	△ 11
	計	19	16	68	16	0	19	11	68	21	△ 10
合 計	438	18	62	20	△ 2	437	17	62	21	△ 4	

(2) 外貿コンテナ ー輸入ー

■ 7～9月実績（見込み）の『荷動き指数』は、食料品・飲料、化学・プラスチック、その他の製造業の3業種がプラス、パルプ・紙、金属製品、一般機械の3業種がゼロ水準で、電気機械、輸送用機械など9業種がマイナスとなった。業種全体の『利用動向指数』は△5で、前期（4～6月）実績からは4ポイント上昇した。

■ 10～12月の『利用動向指数』見通しでは、一般機械がマイナスに沈み、その他の製造業もゼロ水準まで下降する一方、木材・家具がプラスに浮上するなど、5業種において改善の動きがみられる。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△3と2ポイント上昇する見通しで、荷動きの減退圧力は若干弱まるとみられる。

外貿コンテナによる輸入量の実績と見通し

業 種	2015年7月～9月実績					2015年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
製 造 業	食料品・飲料	21	19	71	10	9	21	19	67	14	5
	繊維・衣服	13	15	54	31	△16	13	15	54	31	△16
	木材・家具	12	17	58	25	△8	12	25	58	17	8
	パルプ・紙	8	25	50	25	0	8	25	50	25	0
	化学・プラスチック	63	14	80	6	8	63	21	75	4	17
	窯業・土石	20	25	35	40	△15	20	20	50	30	△10
	鉄鋼・非鉄	26	8	69	23	△15	26	11	58	31	△20
	金属製品	18	17	66	17	0	18	11	78	11	0
	一般機械	53	13	74	13	0	53	11	70	19	△8
	電気機械	58	14	60	26	△12	58	17	61	22	△5
	輸送用機械	56	14	61	25	△11	56	18	57	25	△7
	精密機械	15	13	67	20	△7	15	13	60	27	△14
	その他	27	19	67	14	5	27	19	62	19	0
計	390	15	66	19	△4	390	17	64	19	△2	
卸 売 業	生産財	15	20	47	33	△13	15	13	54	33	△20
	消費財	12	17	58	25	△8	12	17	58	25	△8
	計	27	18	52	30	△12	27	14	56	30	△16
合計	417	15	65	20	△5	417	17	63	20	△3	

(3) 国際航空 —輸出—

■ 7～9月実績（見込み）の『荷動き指数』は、化学・プラスチックが唯一プラスを示し、木材・家具、一般機械、精密機械の3業種がゼロ水準で、残り11業種がマイナスとなった。業種全体の『利用動向指数』は△7で、前期（4～6月）実績からは3ポイント低下した。

■ 10～12月の『利用動向指数』見通しでは、消費材卸がゼロ水準まで戻す一方、化学・プラスチック、一般機械、精密機械の3業種がマイナスに沈む。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△9と2ポイント低下する見通しで、荷動きの減退圧力が強まるとみられる。

国際航空による輸出量の実績と見通し

業 種	2015年7月～9月実績					2015年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
製 造 業	食料品・飲料	8	0	88	12	△12	8	0	88	12	△12
	繊維・衣服	10	0	90	10	△10	9	11	67	22	△11
	木材・家具	2	0	100	0	0	2	0	100	0	0
	パルプ・紙	2	0	50	50	△50	2	0	50	50	△50
	化学・プラスチック	40	13	78	9	4	40	4	88	8	△4
	窯業・土石	11	18	55	27	△9	11	9	73	18	△9
	鉄鋼・非鉄	24	8	79	13	△5	24	8	71	21	△13
	金属製品	15	7	80	13	△6	15	7	80	13	△6
	一般機械	58	12	76	12	0	58	13	66	21	△8
	電気機械	70	14	62	24	△10	70	17	57	26	△9
	輸送用機械	44	7	70	23	△16	44	13	64	23	△10
	精密機械	19	26	48	26	0	19	26	42	32	△6
	その他	17	6	76	18	△12	17	5	71	24	△19
計	320	11	71	18	△7	319	12	67	21	△9	
卸 売 業	生産財	9	11	67	22	△11	9	11	67	22	△11
	消費財	8	12	63	25	△13	8	25	50	25	0
	計	17	11	65	24	△13	17	17	59	24	△7
合計	337	11	71	18	△7	336	12	67	21	△9	

(4) 国際航空 —輸入—

■ 7～9月実績（見込み）の『荷動き指数』は、化学・プラスチックおよび生産財卸がプラス、木材・家具がゼロ水準で、残り12業種がマイナスとなった。業種全体の『利用動向指数』は△7で、前期（4～6月）実績からは5ポイント上昇した。

■ 10～12月の『利用動向指数』見通しでは、繊維・衣服がゼロ水準まで戻す一方、一般機械など5業種で悪化の動きがみられる。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△9と2ポイント低下する見通しで、荷動きの減退圧力が強まるとみられる。

国際航空による輸入量の実績と見通し

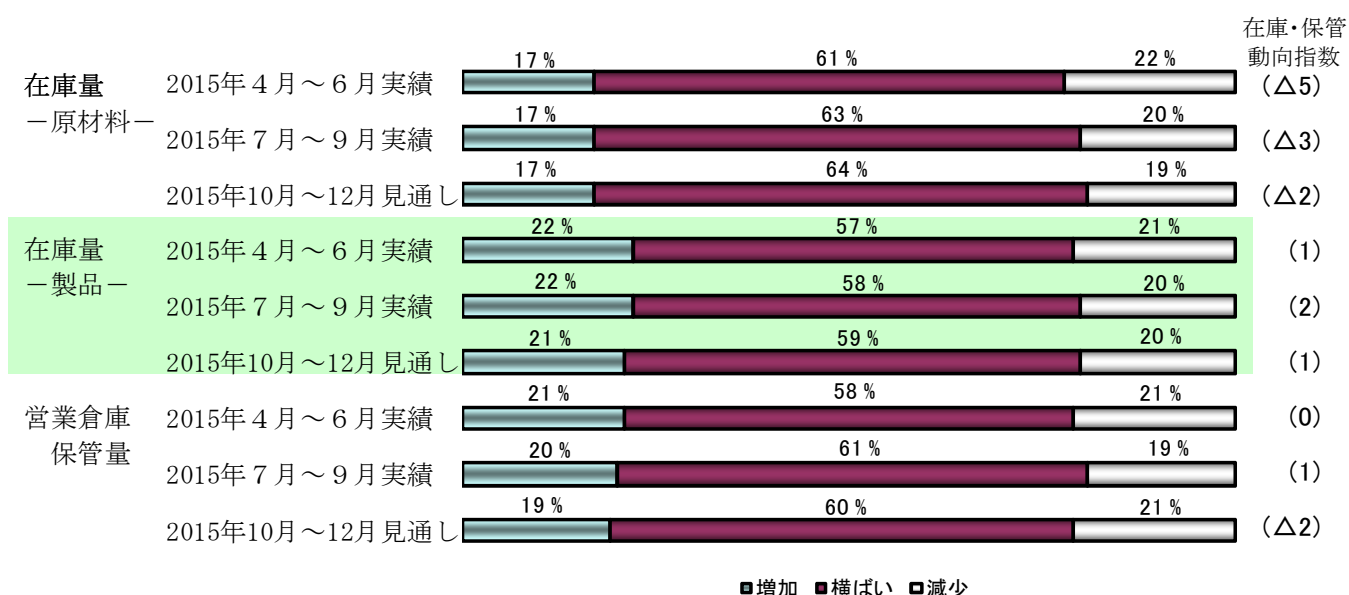
業種	2015年7月～9月実績					2015年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
製造業	食料品・飲料	10	0	70	30	△30	10	0	70	30	△30
	繊維・衣服	6	0	83	17	△17	6	17	66	17	0
	木材・家具	2	0	100	0	0	2	0	100	0	0
	パルプ・紙	2	0	50	50	△50	2	0	50	50	△50
	化学・プラスチック	35	14	80	6	8	35	11	86	3	8
	窯業・土石	10	20	50	30	△10	10	10	60	30	△20
	鉄鋼・非鉄	17	11	71	18	△7	17	12	59	29	△17
	金属製品	14	0	86	14	△14	14	0	86	14	△14
	一般機械	47	6	77	17	△11	47	4	73	23	△19
	電気機械	58	10	74	16	△6	58	14	67	19	△5
	輸送用機械	39	13	64	23	△10	38	13	69	18	△5
	精密機械	19	11	63	26	△15	19	10	58	32	△22
	その他	16	6	81	13	△7	16	6	75	19	△13
計	275	9	74	17	△8	274	9	71	20	△11	
卸売業	生産財	10	30	60	10	20	10	30	60	10	20
	消費財	9	0	89	11	△11	9	0	89	11	△11
	計	19	16	74	10	6	19	16	74	10	6
合計	294	10	73	17	△7	293	10	71	19	△9	

－ 5. 在庫量と営業倉庫利用の動向－

■ 7～9月実績（見込み）の在庫量と営業倉庫保管量の動向をみると、すべての『動向指数』が前期（4～6月）実績よりも上昇した。この結果、**製品在庫および営業倉庫保管量でプラス、原材料在庫ではマイナスと、バラツキがみられる。**

■ 10～12月の見通しについては、原材料在庫で『動向指数』が上昇する一方、製品在庫および営業倉庫保管量では低下する見込みである。この結果、**製品在庫では『動向指数』がプラス、原材料在庫および営業倉庫保管量ではマイナスと、バラツキがみられる。**

在庫量と営業倉庫保管量の実績と見通し



(1) 在庫量 —原材料—

■ 7～9月実績（見込み）の『在庫動向指数』は、食料品・飲料、化学・プラスチックなど6業種がプラス、金属製品がゼロ水準で、窯業・土石、消費財卸など8業種がマイナスとなった。業種全体の『在庫動向指数』は△3で、前期（4～6月）実績からは2ポイント上昇した。

■ 10～12月の『在庫動向指数』見通しでは、電気機械がマイナスに沈み、木材・家具および精密機械がゼロ水準まで下降する一方、金属製品がプラスに浮上するなど、4業種において上昇する。この結果、業種全体の『在庫動向指数』は△2と強含み横ばいの推移が見込まれ、原材料在庫は若干の縮小が続くとみられる。

在庫量（原材料）の実績と見通し

業 種	2015年7月～9月実績					2015年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			在庫動向指数	回答社数	構成比(%)			在庫動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
製 造 業	食料品・飲料	91	20	67	13	7	91	18	70	12	6
	繊維・衣服	39	17	62	21	△4	38	13	69	18	△5
	木材・家具	34	21	62	17	4	34	15	70	15	0
	パルプ・紙	45	16	62	22	△6	45	7	80	13	△6
	化学・プラスチック	111	20	66	14	6	111	20	64	16	4
	窯業・土石	37	18	41	41	△23	37	19	46	35	△16
	鉄鋼・非鉄	89	16	63	21	△5	89	13	65	22	△9
	金属製品	45	20	60	20	0	45	22	62	16	6
	一般機械	80	19	65	16	3	80	20	63	17	3
	電気機械	98	20	61	19	1	98	19	55	26	△7
	輸送用機械	83	13	67	20	△7	83	13	67	20	△7
	精密機械	23	26	52	22	4	23	22	56	22	0
	その他	44	14	68	18	△4	44	16	64	20	△4
計	819	18	63	19	△1	818	17	64	19	△2	
卸 売 業	生産財	25	8	72	20	△12	25	12	68	20	△8
	消費財	31	16	52	32	△16	31	16	58	26	△10
	計	56	12	61	27	△15	56	14	63	23	△9
合計	875	17	63	20	△3	874	17	64	19	△2	

(2) 在庫量 —製品—

■ 7～9月実績（見込み）の『在庫動向指数』は、繊維・衣服、パルプ・紙など8業種がプラス、窯業・土石がゼロ水準で、輸送用機械、消費財卸など6業種がマイナスとなった。業種全体の『在庫動向指数』はプラス2で、前期（4～6月）実績からは強含み横ばいで推移した。

■ 10～12月の『在庫動向指数』見通しでは、その他の製造業がプラスに浮上する一方、化学・プラスチック、窯業・土石、生産財卸の3業種がマイナスに沈む。この結果、業種全体の『在庫動向指数』はプラス1と弱含み横ばいで推移する見通しで、製品在庫は小幅な増加が続くとみられる。

在庫量（製品）の実績と見通し

業 種	2015年7月～9月実績					2015年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			在庫動向指数	回答社数	構成比(%)			在庫動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
製 造 業	食料品・飲料	92	22	63	15	7	92	20	65	15	5
	繊維・衣服	38	32	47	21	11	37	24	57	19	5
	木材・家具	35	29	46	25	4	35	29	54	17	12
	パルプ・紙	47	43	40	17	26	47	28	53	19	9
	化学・プラスチック	115	21	59	20	1	115	18	60	22	△4
	窯業・土石	38	29	42	29	0	38	26	45	29	△3
	鉄鋼・非鉄	91	21	59	20	1	91	24	58	18	6
	金属製品	50	18	58	24	△6	50	18	60	22	△4
	一般機械	85	20	65	15	5	85	20	62	18	2
	電気機械	106	19	63	18	1	106	24	57	19	5
	輸送用機械	88	13	64	23	△10	88	19	58	23	△4
	精密機械	26	19	54	27	△8	26	15	58	27	△12
	その他	46	22	52	26	△4	46	26	52	22	4
計	857	22	58	20	2	856	22	58	20	2	
卸 売 業	生産財	41	22	56	22	0	41	20	56	24	△4
	消費財	42	14	60	26	△12	42	14	65	21	△7
	計	83	18	58	24	△6	83	17	60	23	△6
合計	940	22	58	20	2	939	21	59	20	1	

(3) 営業倉庫保管量

■ 7～9月実績（見込み）の『保管動向指数』は、パルプ・紙、一般機械など10業種がプラスで、輸送用機械など5業種がマイナスとなった。業種全体の『保管動向指数』はプラス1で、前期（4～6月）実績からは強含み横ばいで推移した。

■ 10～12月の『保管動向指数』見通しでは、精密機械がゼロ水準まで戻す一方、木材・家具、その他の製造業、生産財卸の3業種がマイナスに沈み、金属製品もゼロ水準まで下降する。この結果、業種全体の『保管動向指数』は3ポイント低下して△2と見込まれ、営業倉庫保管量は縮小に向かうとみられる。

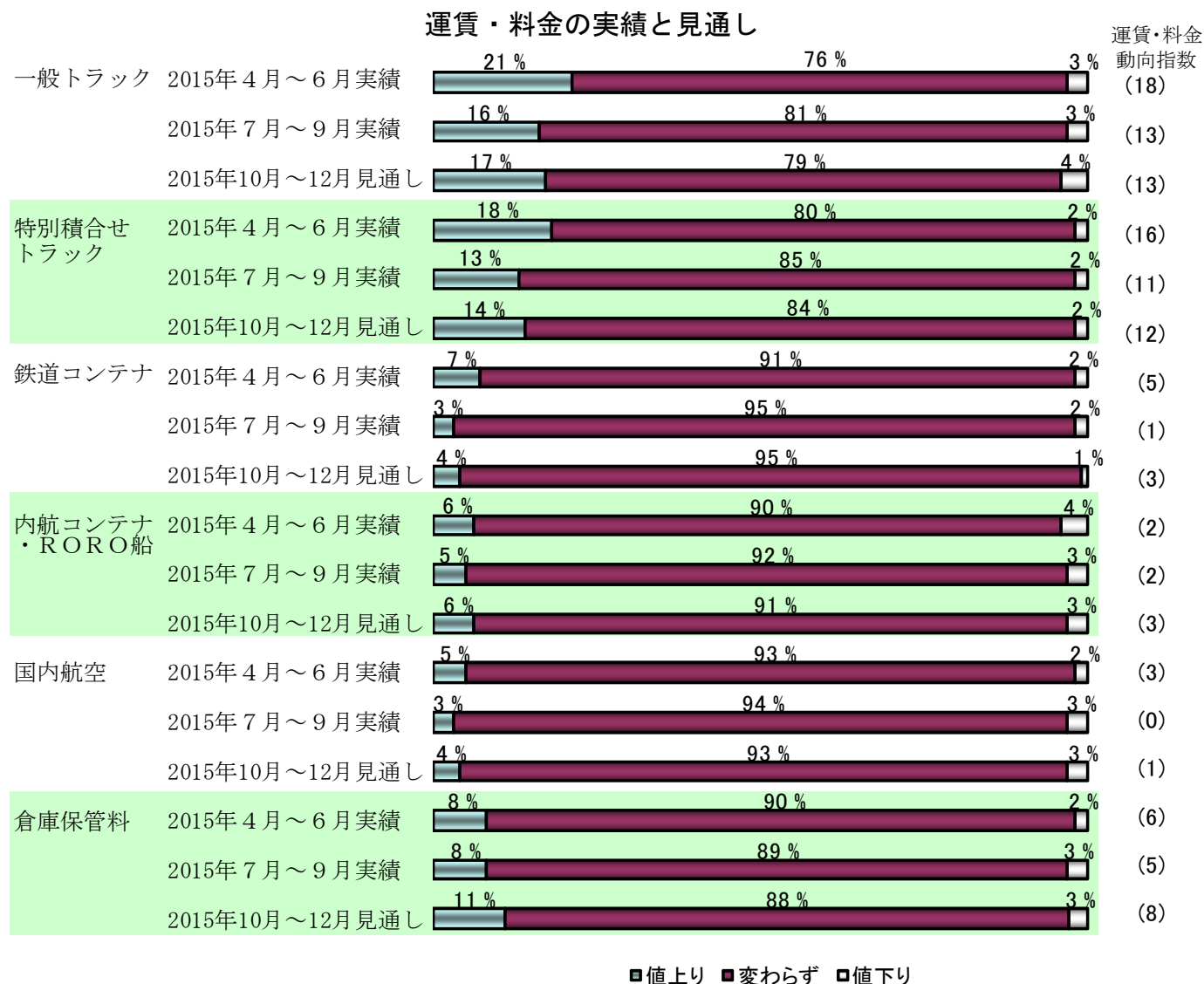
営業倉庫保管量の実績と見通し

業種	2015年7月～9月実績					2015年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			保管動向指数	回答社数	構成比(%)			保管動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
製造業	食料品・飲料	80	25	55	20	5	81	25	58	17	8
	繊維・衣服	22	9	64	27	△18	21	14	57	29	△15
	木材・家具	29	28	55	17	11	29	10	66	24	△14
	パルプ・紙	41	37	51	12	25	41	27	63	10	17
	化学・プラスチック	99	23	58	19	4	99	22	58	20	2
	窯業・土石	21	14	53	33	△19	21	10	57	33	△23
	鉄鋼・非鉄	69	20	63	17	3	69	19	64	17	2
	金属製品	31	16	71	13	3	31	16	68	16	0
	一般機械	61	28	62	10	18	61	31	54	15	16
	電気機械	76	13	65	22	△9	76	17	55	28	△11
	輸送用機械	64	12	55	33	△21	64	14	55	31	△17
	精密機械	17	6	76	18	△12	17	18	64	18	0
	その他	43	26	51	23	3	43	25	47	28	△3
計	653	21	59	20	1	653	21	58	21	0	
卸売業	生産財	37	16	73	11	5	37	13	65	22	△9
	消費財	39	15	75	10	5	39	15	80	5	10
	計	76	16	74	10	6	76	14	73	13	1
合計	729	20	61	19	1	729	19	60	21	△2	

－ 6. 運賃・料金の動向－

■ 7～9月の運賃・料金水準『動向指数』実績（見込み）は、内航コンテナ・ROR船において前期（4～6月）実績から横ばいで推移する一方、その他の機関では低下した。『動向指数』は、国内航空においてゼロ水準で、その他の機関ではプラスとなった。

■ 10～12月の『動向指数』見通しについては、総じて小幅な動きとなり、一般トラックにおいて横ばいで推移する一方、その他の機関では上昇する見込みである。この結果、すべての機関で『動向指数』がプラスとなり、運賃・料金の上昇基調に変化はないが、やや一服感がみられる。



(1) 一般トラック運賃

■ 7～9月実績（見込み）の『運賃動向指数』は、マイナスの業種は皆無で、すべての業種においてプラスとなった。業種全体の『運賃動向指数』はプラス13で、前期（4～6月）実績からは5ポイント低下した。

■ 10～12月の『運賃動向指数』見通しでは、精密機械がゼロ水準まで下降するなど、7業種において低下する一方、電気機械など5業種でプラス幅が拡大する見通しである。この結果、業種全体の『運賃動向指数』はプラス13と横ばいの推移が見込まれ、運賃水準の上昇圧力は依然として強いものの、やや一服感がみられる。

一般トラック運賃の実績と見通し

業種	2015年7月～9月実績					2015年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り		
製造業	食料品・飲料	105	24	73	3	21	105	23	74	3	20
	繊維・衣服	36	11	89	0	11	35	17	83	0	17
	木材・家具	36	14	86	0	14	36	17	83	0	17
	パルプ・紙	48	19	75	6	13	48	17	77	6	11
	化学・プラスチック	114	20	77	3	17	114	21	75	4	17
	窯業・土石	36	17	81	2	15	36	19	78	3	16
	鉄鋼・非鉄	98	15	75	10	5	98	15	74	11	4
	金属製品	56	18	79	3	15	56	18	79	3	15
	一般機械	88	11	89	0	11	88	11	87	2	9
	電気機械	110	12	84	4	8	110	15	80	5	10
	輸送用機械	88	8	86	6	2	88	7	88	5	2
	精密機械	25	8	88	4	4	25	8	84	8	0
	その他	51	22	78	0	22	51	16	84	0	16
計	891	16	81	3	13	890	16	80	4	12	
卸売業	生産財	45	16	84	0	16	45	16	82	2	14
	消費財	46	26	72	2	24	46	30	70	0	30
	計	91	21	78	1	20	91	23	76	1	22
合計	982	16	81	3	13	981	17	79	4	13	

(2) 特別積合せトラック運賃

■ 7～9月実績（見込み）の『運賃動向指数』は、木材・家具がマイナス、金属製品および一般機械がゼロ水準で、残り12業種がプラスとなった。業種全体の『運賃動向指数』はプラス11で、前期(4～6月)実績からは5ポイント低下した。

■ 10～12月の『運賃動向指数』見通しでは、木材・家具、金属製品、一般機械の3業種がプラスに浮上する見通しである。この結果、業種全体の『運賃動向指数』はプラス12と強含み横ばいの推移が見込まれ、運賃水準の上昇圧力は依然として強いものの、やや一服感がみられる。

特別積合せトラック運賃の実績と見通し

業種	2015年7月～9月実績					2015年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り		
製造業	食料品・飲料	73	29	70	1	28	73	29	70	1	28
	繊維・衣服	26	15	85	0	15	26	19	81	0	19
	木材・家具	25	0	96	4	△4	25	4	96	0	4
	パルプ・紙	28	18	82	0	18	28	18	82	0	18
	化学・プラスチック	98	16	83	1	15	97	19	80	1	18
	窯業・土石	28	18	75	7	11	28	21	75	4	17
	鉄鋼・非鉄	59	12	81	7	5	59	12	81	7	5
	金属製品	37	3	94	3	0	37	8	89	3	5
	一般機械	63	0	100	0	0	63	2	98	0	2
	電気機械	89	7	90	3	4	89	7	90	3	4
	輸送用機械	72	11	83	6	5	72	8	86	6	2
	精密機械	20	15	80	5	10	20	15	75	10	5
	その他	41	20	80	0	20	41	17	83	0	17
計	659	13	85	2	11	658	14	84	2	12	
卸売業	生産財	34	9	91	0	9	34	15	85	0	15
	消費財	35	11	86	3	8	35	14	86	0	14
	計	69	10	89	1	9	69	14	86	0	14
合計	728	13	85	2	11	727	14	84	2	12	

(3) 鉄道コンテナ運賃

■ 7～9月実績（見込み）の『運賃動向指数』は、窯業・土石、生産財卸など9業種がプラス、繊維・衣服および木材・家具がゼロ水準で、精密機械など4業種がマイナスとなった。業種全体の『運賃動向指数』はプラス1で、前期(4～6月)実績からは4ポイント低下した。

■ 10～12月の『運賃動向指数』見通しでは、パルプ・紙および化学・プラスチックにおいてプラス幅が縮小する一方、電気機械がゼロ水準まで戻すほか、食料品・飲料およびその他の製造業のプラス幅が拡大する見通しである。この結果、業種全体の『運賃動向指数』はプラス3と2ポイント上昇する見通しで、運賃水準の上昇圧力はわずかながら強まるとみられる。

鉄道コンテナ運賃の実績と見通し

業種	2015年7月～9月実績					2015年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り		
製造業	食料品・飲料	51	6	92	2	4	51	8	90	2	6
	繊維・衣服	9	0	100	0	0	7	0	100	0	0
	木材・家具	18	0	100	0	0	18	0	100	0	0
	パルプ・紙	34	6	94	0	6	34	3	97	0	3
	化学・プラスチック	84	4	95	1	3	84	2	98	0	2
	窯業・土石	17	12	88	0	12	17	12	88	0	12
	鉄鋼・非鉄	41	5	93	2	3	41	5	93	2	3
	金属製品	20	0	95	5	△5	20	0	95	5	△5
	一般機械	34	3	97	0	3	34	3	97	0	3
	電気機械	39	0	97	3	△3	38	0	100	0	0
	輸送用機械	36	0	97	3	△3	36	0	97	3	△3
	精密機械	14	0	86	14	△14	14	0	86	14	△14
	その他	30	3	97	0	3	30	7	93	0	7
計	427	3	95	2	1	424	3	96	1	2	
卸売業	生産財	12	8	92	0	8	12	8	92	0	8
	消費財	19	5	95	0	5	19	5	95	0	5
	計	31	6	94	0	6	31	6	94	0	6
合計	458	3	95	2	1	455	4	95	1	3	

(4) 内航コンテナ・RORO船運賃

■ 7～9月実績(見込み)の『運賃動向指数』は、窯業・土石など5業種がプラス、繊維・衣服など7業種がゼロ水準で、木材・家具、化学・プラスチック、精密機械の3業種がマイナスとなった。業種全体の『運賃動向指数』はプラス2で、前期(4～6月)実績からは横ばいで推移した。

■ 10～12月の『運賃動向指数』見通しでは、食料品・飲料がゼロ水準まで下降する一方、電気機械および消費財卸がプラスに浮上し、化学・プラスチックもゼロ水準まで戻す。この結果、業種全体の『運賃動向指数』はプラス3と強含み横ばいの推移が見込まれ、運賃水準の上昇圧力はわずかながら強まるとみられる。

※ 今回より、「内航コンテナ」から「内航コンテナ・RORO船」に変更した。

内航コンテナ・RORO船運賃の実績と見通し

業種	2015年7月～9月実績					2015年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り		
製造業	食料品・飲料	32	3	97	0	3	32	3	94	3	0
	繊維・衣服	3	0	100	0	0	2	0	100	0	0
	木材・家具	12	0	92	8	△8	12	0	92	8	△8
	パルプ・紙	23	9	87	4	5	23	13	83	4	9
	化学・プラスチック	58	3	92	5	△2	57	5	90	5	0
	窯業・土石	11	27	64	9	18	11	27	64	9	18
	鉄鋼・非鉄	29	3	94	3	0	29	3	94	3	0
	金属製品	13	0	100	0	0	13	0	100	0	0
	一般機械	30	7	93	0	7	30	7	93	0	7
	電気機械	37	3	94	3	0	37	3	97	0	3
	輸送用機械	30	3	94	3	0	30	3	94	3	0
	精密機械	13	0	85	15	△15	13	0	85	15	△15
	その他	23	13	87	0	13	23	13	87	0	13
計	314	5	91	4	1	312	6	91	3	3	
卸売業	生産財	7	0	100	0	0	7	0	100	0	0
	消費財	13	0	100	0	0	13	8	92	0	8
	計	20	0	100	0	0	20	5	95	0	5
合計	334	5	92	3	2	332	6	91	3	3	

(5) 国内航空運賃

■ 7～9月実績（見込み）の『運賃動向指数』は、パルプ・紙など5業種がプラス、木材・家具など6業種がゼロ水準で、精密機械など4業種がマイナスを示した。業種全体の『運賃動向指数』はゼロ水準で、前期（4～6月）実績からは3ポイント低下した。

■ 10～12月の『運賃動向指数』見通しでは、化学・プラスチックおよび電気機械がプラスに浮上するなど、4業種において上昇する以外に動きはみられない。この結果、業種全体の『運賃動向指数』はプラス1と強含み横ばいの推移が見込まれ、運賃水準の上昇圧力はわずかながら強まるとみられる。

国内航空運賃の実績と見通し

業 種	2015年7月～9月実績					2015年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り		
製 造 業	食料品・飲料	25	4	88	8	△4	25	4	88	8	△4
	繊維・衣服	9	11	89	0	11	7	14	86	0	14
	木材・家具	8	0	100	0	0	8	0	100	0	0
	パルプ・紙	3	33	67	0	33	3	33	67	0	33
	化学・プラスチック	36	3	94	3	0	36	6	92	2	4
	窯業・土石	10	20	70	10	10	10	20	80	0	20
	鉄鋼・非鉄	21	5	95	0	5	21	5	95	0	5
	金属製品	15	0	100	0	0	15	0	100	0	0
	一般機械	42	0	98	2	△2	42	0	98	2	△2
	電気機械	55	4	91	5	△1	55	7	89	4	3
	輸送用機械	32	0	100	0	0	32	0	100	0	0
	精密機械	20	0	85	15	△15	20	0	85	15	△15
	その他	21	0	100	0	0	21	0	100	0	0
計	297	3	93	4	△1	295	4	93	3	1	
卸 売 業	生産財	11	0	100	0	0	11	0	100	0	0
	消費財	17	6	94	0	6	17	6	94	0	6
	計	28	4	96	0	4	28	4	96	0	4
合計	325	3	94	3	0	323	4	93	3	1	

(6) 営業倉庫保管料金

■ 7～9月実績（見込み）の『料金動向指数』は、電気機械および精密機械がマイナス、窯業・土石および金属製品がゼロ水準で、残り11業種がプラスとなった。業種全体の『料金動向指数』はプラス5で、前期（4～6月）実績からは弱含み横ばいで推移した。

■ 10～12月の『料金動向指数』見通しでは、鉄鋼・非鉄がゼロ水準まで下降する一方、窯業・土石、金属製品、電気機械の3業種がプラスに浮上する。業種全体の『料金動向指数』はプラス6と強含み横ばいの推移が見込まれ、料金水準の上昇圧力は強まるとみられる。

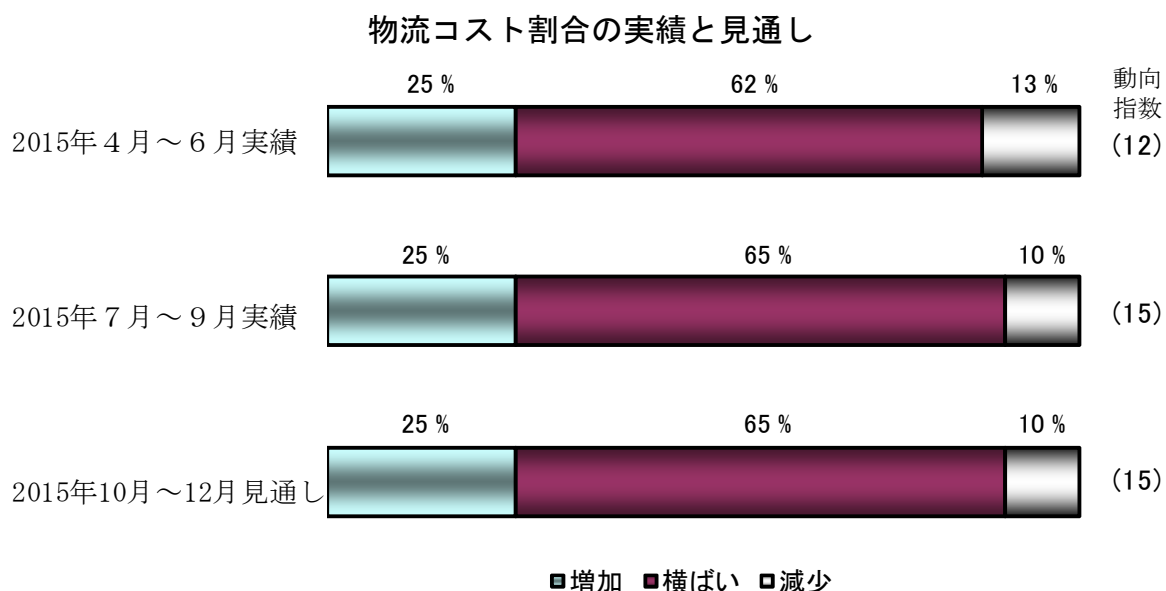
営業倉庫保管料金の実績と見通し

業種	2015年7月～9月実績					2015年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			料金動向指数	回答社数	構成比(%)			料金動向指数	
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り		
製造業	食料品・飲料	65	14	83	3	11	65	20	75	5	15
	繊維・衣服	16	6	94	0	6	15	20	80	0	20
	木材・家具	22	9	91	0	9	22	5	95	0	5
	パルプ・紙	35	11	89	0	11	35	11	89	0	11
	化学・プラスチック	89	8	90	2	6	89	10	89	1	9
	窯業・土石	19	11	78	11	0	19	11	89	0	11
	鉄鋼・非鉄	57	5	91	4	1	57	5	90	5	0
	金属製品	29	3	94	3	0	29	7	90	3	4
	一般機械	58	7	90	3	4	56	5	91	4	1
	電気機械	70	3	93	4	△1	70	7	87	6	1
	輸送用機械	59	8	90	2	6	59	8	92	0	8
	精密機械	13	0	92	8	△8	13	0	92	8	△8
	その他	36	8	86	6	2	36	8	89	3	5
計	568	8	89	3	5	565	9	88	3	6	
卸売業	生産財	33	9	88	3	6	33	9	88	3	6
	消費財	29	7	93	0	7	29	10	90	0	10
	計	62	8	90	2	6	62	10	89	1	9
合計	630	8	89	3	5	627	9	88	3	6	

ー 7. 物流コスト割合の動向ー

■ 売上高に対する物流コスト割合の動向について、7～9月実績（見込み）の『動向指数』は、輸送用機械が唯一マイナスで、残り14業種がプラスとなった。業種全体の『動向指数』はプラス15で、前期（4～6月）実績からは3ポイント上昇した。

■ 10～12月の『動向指数』見通しでは、精密機械がマイナスに沈む一方、繊維・衣服など7業種で上昇の動きがみられる。この結果、業種全体の『動向指数』はプラス15と横ばいでの推移が見込まれ、物流コスト割合の上昇圧力は依然として強い。



物流コスト割合の実績と見通し

業 種		2015年7月～9月実績					2015年10月～12月見通し				
		回答社数	構成比(%)			動 向 指 数	回答社数	構成比(%)			動 向 指 数
			上昇	不変	下降			上昇	不変	下降	
製 造 業	食 料 品 ・ 飲 料	107	36	57	7	29	107	36	58	6	30
	織 維 ・ 衣 服	41	20	73	7	13	40	30	63	7	23
	木 材 ・ 家 具	38	29	66	5	24	38	29	66	5	24
	パ ル プ ・ 紙	47	36	53	11	25	47	38	53	9	29
	化学・プラスチック	117	23	67	10	13	117	22	68	10	12
	窯 業 ・ 土 石	38	37	55	8	29	38	39	58	3	36
	鉄 鋼 ・ 非 鉄	99	18	72	10	8	99	20	69	11	9
	金 属 製 品	58	21	69	10	11	58	19	69	12	7
	一 般 機 械	89	27	69	4	23	88	23	70	7	16
	電 気 機 械	117	21	66	13	8	117	23	62	15	8
	輸 送 用 機 械	92	13	70	17	△ 4	92	13	67	20	△ 7
	精 密 機 械	26	19	66	15	4	26	12	73	15	△ 3
	そ の 他	52	31	58	11	20	52	23	65	12	11
計	921	25	65	10	15	919	24	65	11	13	
卸 売 業	生 産 財	49	20	72	8	12	49	22	70	8	14
	消 費 財	48	29	63	8	21	48	33	61	6	27
	計	97	25	67	8	17	97	28	65	7	21
合 計		1,018	25	65	10	15	1,016	25	65	10	15